

神に感謝

信徒代表 坂本 規子

明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしく願いいたします。

早いもので評議会議長をお引き受けしてから2度目のお正月となりました。去年は大きな災害や、暮れには突然の解散、総選挙があり慌ただしく過ぎていった一年でした。

教会ではNHKのドラマのためか巡礼に沢山の方が来てくださいました。そして私たちも高山右近の列福を祈願してゆかりのある地に巡礼旅行をしました。9月23日には池長大司教に代わって前田万葉大司教が着座され大阪教区にも大きな変化がありました。

さて、私には評議会議長を引き受けてから感謝したいことがたくさんあります。そのひとつは沢山のひとと出会えることでした。先日、病者訪問の運転手を引き受け、病者訪問に同行させていただきました。グループホームに入所しておられる認知症が進んだ一人の女性を訪問しました。初めて訪問した私にも満面の笑顔で「よう来てくださいました。」と喜んでくださり、初めてお会いする方なので少し心配していた私でしたが、幸せな気分でお話をすることができました。認知症のため、同じことばかり繰り返し繰り返し、話されますが、その中で「私は天国にいるようです、皆さんに良くしていただいて、まるで天国にいるようです」と何度も何度も言うておられました。一か月前に、ご主人を亡くされていますが、そのことも忘れ、すべてのことを忘れてしまっておられる様子でした。その日は足の具合が悪いようでホームのリビングのソファで過ごしておられました。ヘルパーさんの話によると最近よく転ばれるため目の行き届くリビングで過ごしてもらっているとのことでした。きっと足の痛みや不安もあったのではないかと思います。でも彼女の口から出る言葉は「天国」という言葉ばかりでした。その時、私はふっと聖書のなかの天国の話を思い出しました。「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のもの過ぎ去ったからである。」(ヨハネの黙示録21・4)天国では痛みも苦しみもないといわれています。主イエスの臨在の中で私たちは完全にされ永遠に完全に生きることができるといわれます。認知症のためすべてのことを忘れ周りの人に感謝の言葉を伝えながら生きておられるこの女性は、今、本当に天国の中で過ごしておられるのではないかと思います。そして神様はこの方を通して私に天国の希望と大切なことを教えて下さいました。このようなさまざまな出会いの中で私は神様から教えられ、また沢山の恵みをいただくことが出来て感謝しています。

今年は評議会議長、副議長、チームメンバーの改選の年になります。ほっとする中にも次の働き人がおこされるよう神様に祈っている今日この頃です。新しい年を迎え今年「見よ、兄弟が座っている。何という恵み、何という喜び」というテーマのもとに地区大会が、行われる予定です。私たちのひとつひとつの働きは神の栄光のためであることを心にとめ、今年も神様がどんなご計画のもとに私たちを導いて下さるのか楽しみにしています。